

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	2170500959
法人名	医療法人 聡仁会
事業所名	グループホーム さかい
訪問調査日	平成 20 年 4 月 22 日
評価確定日	平成 20 年 7 月 3 日
評価機関名	旅人とたいようの会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 2008年4月22日

【評価実施概要】

事業所番号	2170500959
法人名	医療法人 聡仁会
事業所名	グループホーム さかい
所在地	岐阜県各務ヶ原市蘇原沢上町2-43 (電話) 058-380-3232

評価機関名	旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110		
訪問調査日	平成20年4月22日	訪問調査日	平成20年7月3日

【情報提供票より】(20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19人	常勤13人	非常勤 6人 非常勤換算 8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当り 1,200 円			

(4) 利用者の概要(2月1日)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	4名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	4名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 84,9歳	最低	74歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	酒井クリニック 東海中央病院 いずみ歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人・聡仁会が開設する、グループホームさかい・医療・居宅介護支援・通所介護・訪問介護・小規模多機能型居宅介護等利用者の介護予防から重度化・終末期・看取りまで安心できる連携体制が確立している。職員は各委員会(給食・研修・顧客満足度向上・地域交流等)に所属し、やりがい感や達成感を持ちながら利用者の特性を引き出した介護計画を立て支援している。職員の質の向上を図るため働きながら学ぶことや、専門知識を得ることに協力的である。特に地域に根ざした事業所を目指し相互交流に積極的である。母体である法人の多機能性を活かし、行事を地域と一緒に開催し、医療・福祉・保健の連携と充実を図る事業所である。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題と今後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での更に取り入れていきたい内容は、評価の意義の理解と活用・運営推進会議を活かした取り組み・運営に関する家族等意見の反映・職員の異動等による影響への配慮・思いや意向の把握・食事を楽しむことのできる支援・鍵をかけないケアの実践・災害対策・居心地のよい共用空間づくり等の項目について、全職員で目標と年間計画をたて取り組みながら質の向上をめざしている。尚前回の外部評価の結果は玄関に置き公開している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価に対しては全職員で分担して評価を書き込み検討しながら、管理者・総括責任者・介護支援専門員でまとめている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>3ヶ月に1回を定期として、行政・地域・家族・事業所の参加メンバーで開催している。ホームの実態・利用者の状況・顧客満足度アンケート内容(ベッド転落予防方法は・保育園行事に参加等)の報告や意見交換をしている。意見をホーム会議で検討しサービスの質の向上に活かしている。市町村担当者とも月1回以上面談しながら、利用者の課題や介護保険制度等疑問を明確にし共にサービスの向上に取り組んでいる。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7/8)</p> <p>毎月ホームたより「さかい通信」を発行している。通信の一角に報告欄を設け居室担当者が利用者一人ひとりの家族に個別に日頃の様子を記し知らせている。家族の訪問時には意見や不満を言いやすい雰囲気づくりをしながら傾聴している。苦情や意見、不安の対応には苦情箱・相談窓口・第三者苦情委員・顧客満足度向上委員等で意見を聞きながら運営に反映させている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入している。回覧板が回り、行事や集会に参加し馴染みの関係を深めている。老人会・ボランティアハウス(レクリエーションや創作活動)・地域行事(神社祭礼・掃除)に参加し、地域からの利用者が多く馴染みの住民に会えるのを楽しみにしている。小学生の合唱や中学生のボランティア体験学習も受け入れている。今後、地域交流委員会を設置し、イベント係りがホームの夏祭りを企画している。母体の多機能性を活かして地域住民と相互交流を深める計画が楽しみである。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型の意義を理解し「自然と共に生きる」「人として生きる」「地域と共に生きる」とホーム独自の理念を作り玄関に掲示し、又パンフレットにも明示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念とは別に、年間目標「統一した介護」と上半期の目標「介護計画の把握」を定め、毎朝の申し送り時に唱和し申し送りノート・介護日誌を見ながら理念や目標に沿った実践が出来ているか話し合いながら日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。回覧板を見て集会や行事に参加している。老人会(食事会)ボランティアハウス(生き生きサロン)・地域行事(神社祭礼・掃除)など、地域からの利用者が多く馴染みの住民に会えることを楽しみにしている。小学生・中学生(体験学習)地域ボランティアの訪問もある。更に地域交流委員会(イベント係り)を設置して、夏祭りを手始めに地域住民と相互交流を深める計画があり期待したい。		母体法人と連携し、ホームの特性を活かした地域相互交流を深める取り組みを期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は自己評価や外部評価の意義をよく理解している。前回の評価の結果を玄関に公開している。取り組みたい項目については、年間計画を立案して改善目標の実行に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回定期的に参加メンバー(行政、地域、家族、事業所)で開催している。ホームの実態・利用者の状況・顧客満足度アンケート内容(ベッド転落予防方法・保育園の行事に参加)等を報告し意見交換をしている。運営推進会議での話し合いで地域で交流やサービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に1度は市役所に出向いて担当者と面接し利用者の課題(日常生活自立支援事業)等について、相談したり助言を受けたりしながら疑問を明らかにし、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時に利用者の日常の暮らしぶりや金銭の確認をしている。「さかい通信」にも個別に「近況お知らせコーナ」を設けて居室担当者が一人ひとりの家族に報告している。但し運営推進会議の内容は、すべて知らされていないが必要に応じて報告している。		利用者状況の報告は直接・通信で行っているが、事業所の運営や業務及び運営推進会議に関しても家族に報告することが望まれる。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱・相談窓口・第三者苦情委員・顧客満足度向上委員等を設置して、家族の意見、不満、苦情を広く傾聴する体制ができています。職員は家族の訪問時には常に話しかけ、些細なことでも言ってもらえる雰囲気作り心がけている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は利用者の混乱を防ぐよう、異動や離職をなくす努力をしている。新人職員向けに業務内容や介護内容の流れをまとめたものを活用し、早期に利用者に向き合って言葉をかけ、家族や来訪者向けに玄関に職員の写真を公開し、全員で馴染みの関係づくりに努力している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修委員会を設置し、社内(新人研修)・社外研修に参加している。受講者は研修発表で職員に周知、共有しながら、学習意欲の向上に繋げている。介護福祉士の職員が多く、段階別研修も協力的である。現場では勉強会でお互い話し合ったり、上司に相談したりして学んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会に加入し、事例報告会等にも参加し学習している。介護支援専門員同士の相互訪問があり、サービスの質の向上の機会を作っているが、職員の同業者同士の研修を深め、相互交流の場を拡げる意向に期待したい。		地域の同業者と交流を深め、ネットワーク作りや意見交換等の相互交流でサービスの質の向上を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>母体の通所介護・小規模多機能型居宅介護・訪問介護利用からの入所が多く、連携を取り納得して入所できるような情報収集し信頼関係作りに努めている。又家族・本人と話し合い希望を受け入れ見学や体験回数を重ね不安なく馴染めるよう相談している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の得意な事、縫い物、洗濯物干し、食事の準備・後片づけ・食器洗い・モップかけ等一緒にしている。洗濯物のしわをのばして干す、雑巾の縫い方、糸の通し方等を教えてもらいながら支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式(暮らしの情報シート)を活用したり、日頃の関わりの中で言葉や表情・仕草からその真意を察知し希望を把握している。言葉が出にくい利用者には、ジェスチャーや表情・状況から把握する工夫をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族・職員等と一緒にセンター方式の書類を書き込んでいる。サービス担当者会議を重視し本人・家族の思いや意見が反映できるよう、又医師やサービス提供関係者等の意見も取り込み介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月1回を基本に見直しを、居室担当者・介護支援専門員が中心に行っている。個別記録・職員の情報確認を共有し、家族の意見、医師の意見・指導も入れて見直しをしている。緊急時や状態の変化があれば直ちに会議を開いて見直し対応している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の要望で墓参りや眼科等の受診を柔軟に支援している。受診は家族同伴が基本であるが都合の悪いときは職員が代行している。家族の宿泊希望も受け入れている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は母体の医師をかかりつけ医としているが、利用者・家族の希望にあわせている。受診には看護師が利用者・家族と連絡をとり安心できる支援をしている。認知症専門医との連携で症状の軽減を図る支援もしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族と契約時に話し合い看取りの同意を得ている。利用者のその時々に応じ医師を中心に家族・看護師・職員等で話し合いを重ね、全職員も安心できる支援の方針の共有をしている。協力緊急医療体制があり24時間365日医師・看護師の連携で看取りの事例がある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄や入浴時など、特に自尊心を尊重した声かけに気配りし対応している。「さかい通信」の写真や記載等には利用者や家族の同意を得ている。個人情報など書類の扱いは同意書を交わし書庫に保管している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	新聞を読みたい、朝寝がしたい、昼寝がしたい、好みの服を着る、ご飯よりパンがいい等利用者一人ひとりの希望に沿う支援をしている。家族や利用者の意見を引き出し理解し声掛けしながら支援している。職員体制を整え、外出希望に対応できる工夫をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	介助の必要な利用者もゆっくり自力で食べる時間をとっている。盛り付け・配膳・下膳・食器洗い・おやつ・飲み物準備等職員と一緒に利用者のできる力を活かし声かけしている。優しい音楽が流れ、落ち着いた雰囲気の中で食事を共にし、食事場面を見守り、残さないよう、ゆったり会話しながら促し楽しい雰囲気である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本は1日おきの入浴であるが、利用者の希望や状況に応じて時間・曜日の変更や毎日の入浴等、家族の希望なども取り入れている。季節にあわせて菖蒲や、みかん(入浴剤として)を入れ話題につなげ、工夫しながら楽しい入浴支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は洗濯・掃除・食器洗いを役割としている利用者・編み物やキーボードを弾いて歌う利用者・畑で野菜を作る利用者など一人ひとりの力や楽しみ事を支援している。更にイベント担当者を中心に、「できること」、「したいこと」を見つける努力をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に合わせて外出の機会を作り、外気浴を心がけている。又短時間でも畑やベランダや玄関で外気に触れる時間作りを心がけている。季節行事(祭り・花見等)に出掛け、地域の色々な行事では親しみを肌で感じ取れるように配慮している。利用者の行きたい場所に家族と一緒に出掛ける事も多い。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	狭い道路を挟んで病院・通所介護・グループホームと双方に位置し車両の往来は頻繁で危険から施錠している。職員は施錠の意義を理解しており、散歩・外気浴に出掛ける時間、又は午前の職員体制に合わせて、1時間ほど開放している。今後開放時間の延長など利用者の安全・自由な出入りの確保が課題である。		自由に外出したい利用者の気持ちや家族の思いなど、鍵をかけることの弊害を理解し施錠せず安全に過ごせる工夫を期待したい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て事業所の年間計画にある避難訓練・避難経路の確認・消火器の使い方等の訓練をしている。運営推進会議の席でも地域の協力をお願いしている。地域の災害(防災)訓練には職員が参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	通所介護の厨房からの配食である。職員の検食と利用者の感想(味付け・硬さ・好み)等を厨房に伝え管理栄養士が検討工夫し、栄養バランスやカロリー計算して支援している。摂食量・水分量の記録を取り、利用者の健康状態・咀嚼・嚥下状態に合わせて、刻み食・ミキサー食等形態を工夫し時には医師の指示を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は広く窓も大きくて、採光も充分で気になる音や臭いもなく居間は適温である。季節の花を飾り居心地良い場を工夫している。椅子やソファを置き一人や仲良し同士で話したりテレビをみて過ごせる工夫もある。畑に野菜や草花を植えて、利用者が生活感や季節感を感じながら、楽しく暮らせる日常生活の継続を支援している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた馴染みの箆笥や椅子・仏壇・テレビ・観葉植物・ソファ・鏡台・化粧品・洋服掛け・床に布団を敷く・家族の写真・好きな絵等大切にしていた宝物を持参し、家族と連携しながら飾ったりし、安心して居心地良く過ごせるように努力している。		